

モンゴルの大学生の学生結婚と出産について の意識および子育てをしている大学生の生活実態

齋藤 香里

1 はじめに

モンゴルでは、学業と子育てを両立させている学生が多いと言われている。しかし、その実態について調査が行われたことはない。

本研究は、モンゴルの大学生にアンケート調査を行い、学生結婚と出産についての意識と、学生結婚および出産し育児をしている学生の生活状況を明らかにする。

2 本調査の目的とアンケート調査の実施について

本研究は、モンゴルの大学生の学生結婚と出産そして子育てについての意識と、学生結婚および出産し育児をしている学生の生活の現状を浮きぼりにすることを目的とする。

本研究では、アンケート調査を2012年9月6・7日にモンゴル文化教育大学、人文大学、教育大学、国立大学で実施した。アンケートの回収数は331であった。

3 回答者の基本属性

3.1 性別

アンケートの回答者の性別は、男性94名（28.4%）、女性235名（71.0%）、無回答2名（0.6%）であった（表1）。

表1 性別

	度数	%
男性	94	28.4%
女性	235	71.0%
無回答	2	0.6%
合計	331	100.0%

3.2 学年

アンケート回答者の学年の分布をみると（表2）、1年生が131名（39.6%）、2年生117名（35.3%）、3年生39名（11.8%）、4年生41名（12.4%）、無回答3名（0.9%）であった。

表2 学年分布

	合計		女性	
	度数	%	度数	%
1年生	131	39.6%	95	40.4%
2年生	117	35.3%	77	32.8%
3年生	39	11.8%	27	11.5%
4年生	41	12.4%	34	14.4%
無回答	3	0.9%	2	0.9%
合計	331	100.0%	235	100.0%

女子学生の学年分布は、1年生が95名（40.4%）、2年生が77名（32.8%）、3年生が27名（11.5%）、4年生が34名（14.4%）である。

3.3 年齢

学生の年齢分布（表3）は、「15歳」1名（0.3%）、「16歳」10名（3.0%）、「17歳」66名（20.1%）、「18歳」60名（18.2%）、「19歳」57名（17.3%）、「20歳」45名（13.7%）、「21歳」46名（14.0%）、「22歳」8名（2.4%）、「23歳」9名（2.7%）、「24歳」5名（1.5%）、「25歳」5名（1.5%）、「26歳」3名（0.9%）、「27歳」2名（0.6%）、「28歳」1名（0.3%）、「29歳」3名（0.9%）、「30歳」1名（0.3%）、「31歳」1名（0.3%）、「32歳」2名（0.6%）、「33歳」1名（0.3%）となっている。日本の大学入学年齢18歳未満の学生が、23.4%を占めている。

性別で年齢分布をみると、男性は「17歳」18名（19.1%）、「18歳」17名（18.1%）、「19歳」14名（14.9%）、「20歳」16名（17.0%）、「21歳」22名（23.4%）、「22歳」4名（4.3%）、「23歳」2名（2.1%）、「29歳」1名（1.1%）である。

女性の場合は、「15歳」1名（0.4%）、「16歳」10名（4.3%）、「17歳」48名（20.4%）、「18歳」43名（18.3%）、「19歳」43名（18.3%）、「20歳」29名（12.3%）、「21歳」24名（10.2%）、「22歳」4名（1.7%）、「23歳」7名（3%）、「24歳」5名（2.1%）、「25歳」5名（2.1%）、「26歳」3名（1.3%）、「27歳」2名（0.9%）、「28歳」1名（0.4%）、「29歳」2名（0.9%）、「30歳」1名（0.4%）、「31歳」1名（0.4%）、「32歳」2名（0.9%）、「33歳」1名（0.4%）となっている。

アンケートに回答した学生は、17歳が20.1%と最も多くなっている。男子学生は、17歳から21歳で92.5%を占める。男子学生に占める23歳以下の割合は、98.9%である。それに対し、女子学生で22歳以上の割合は14.5%、25歳以上の割合は6.6%となっている。

男子学生は、20代前半で学業を終える傾向にある。女子学生には、20代半ばからも学ぶケースがみられる。

表3 年齢分布

年齢	男性		女性		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
15	0	0.0%	1	0.4%	1	0.3%
16	0	0.0%	10	4.3%	10	3.0%
17	18	19.1%	48	20.4%	66	20.1%
18	17	18.1%	43	18.3%	60	18.2%
19	14	14.9%	43	18.3%	57	17.3%
20	16	17.0%	29	12.3%	45	13.7%
21	22	23.4%	24	10.2%	46	14.0%
22	4	4.3%	4	1.7%	8	2.4%
23	2	2.1%	7	3.0%	9	2.7%
24	0	0.0%	5	2.1%	5	1.5%
25	0	0.0%	5	2.1%	5	1.5%
26	0	0.0%	3	1.3%	3	0.9%
27	0	0.0%	2	0.9%	2	0.6%
28	0	0.0%	1	0.4%	1	0.3%
29	1	1.1%	2	0.9%	3	0.9%
30	0	0.0%	1	0.4%	1	0.3%
31	0	0.0%	1	0.4%	1	0.3%
32	0	0.0%	2	0.9%	2	0.6%
33	0	0.0%	1	0.4%	1	0.3%
無回答	0	0.0%	3	1.3%	3	0.9%
合計	94	100.0%	235	100.0%	329	100.0%

3.4 結婚

アンケートの回答者（331名）のうち有配偶者は33名で、回答者に占める有配偶率は10.0%である（表4）。すなわち、学生の10人に1人が有配偶者である。

男子学生（94名）の有配偶率は6.4%（6名）、女子学生（235名）の有配偶率は11.5%（27名）である。

表4 配偶者の有無

	度数	%
有配偶	33	10.0%
無配偶	289	87.3%
無回答	9	2.7%
合計	331	100.0%

表5 有配偶者の性別による年齢分布

年齢	合計		男性		女性	
	度数	%	度数	%	度数	%
15～16歳	1	3.0%	0	0.0%	1	3.7%
17～18歳	1	3.0%	1	16.7%	0	0.0%
19～20歳	6	18.2%	0	0.0%	6	22.1%
21～22歳	8	24.3%	4	66.6%	4	14.8%
23～24歳	7	21.2%	1	16.7%	6	22.2%
25～26歳	4	12.1%	0	0.0%	4	14.8%
27～28歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
29～30歳	2	6.1%	0	0.0%	2	7.4%
31～32歳	3	9.1%	0	0.0%	3	11.1%
33～34歳	1	3.0%	0	0.0%	1	3.7%
合計	33	100.0%	6	100.0%	27	100.0%

有配偶者の年齢分布（表5）をみると、「15～16歳」1名（0.3%）、「17～18歳」1名（3.0%）、「19～20歳」6名（18.2%）、「21～22歳」8名（24.3%）、「23～24歳」7名（21.2%）、「25～26歳」4名（12.1%）、「27～28歳」0名（0%）、「29～30歳」2名（6.1%）、「31～32歳」3名（9.1%）、「33～34歳」1名（3.0%）となっている。

有配偶男性の年齢分布（表5）は、「17～18歳」1名（16.7%）、「21～22歳」4名（66.6%）、「23～24歳」1名（16.7%）である。

有配偶女性の年齢分布（表5）は、「15～16歳」1名（3.7%）、「17～18歳」0名（0%）、「19～20歳」6名（22.1%）、「21～22歳」4名（14.8%）、「23～24歳」6名（22.2%）、「25～26歳」4名（14.8%）、「27～28歳」0名（0%）、「29～30歳」2名（7.4%）、「31～32歳」3名（11.1%）、「33～34歳」1名（3.7%）である。

年齢別に女子学生の有配偶率（表6）をみると、「17～18歳」の学生の2.2%、「19～20歳」の13.9%、「21～22歳」では7.1%、「23～24歳」41.7%、「25～26歳」37.5%、「27～28歳」0%、

「29～30歳」66.7%、「31～32歳」66.7%、「33～34歳」では100%が有配偶となっている。23歳以上から、有配偶率が非常に高くなっている。

表6 年齢別女子学生の有配偶率

年齢	女性全体		女性の有配偶者		年齢別にみた有配偶率
	度数	%	度数	%	
15～16歳	11	4.7%	0	0.0%	0.0%
17～18歳	91	38.7%	2	7.4%	2.2%
19～20歳	72	30.6%	10	37.0%	13.9%
21～22歳	28	11.9%	2	7.4%	7.1%
23～24歳	12	5.1%	5	18.6%	41.7%
25～26歳	8	3.4%	3	11.1%	37.5%
27～28歳	3	1.3%	0	0.0%	0.0%
29～30歳	3	1.3%	2	7.4%	66.7%
31～32歳	3	1.3%	2	7.4%	66.7%
33～34歳	1	0.4%	1	3.7%	100.0%
無回答	3	1.3%	0	0.0%	0.0%
合計	235	100.0%	27	100.0%	

3.5 出身地（実家）

回答者の出身地（実家）が首都「ウランバートル」の学生は206名で62.2%、それ以外の「地方」出身者は111名の33.6%となっている（表7）。

出身地（実家）の所在地が「ウランバートル」あるいはそれ以外の「地方」かを問うと、男性で「ウランバートル」と回答した学生は66名で全男子学生の70.2%、「地方」は23名で24.5%となっている。女性は「ウランバートル」が139名（59.2%）、「地方」は88名（37.4%）である（表7）。

「地方」出身者の割合は、男性よりも女性が高い。すなわち、地方から大学進学のために上京するケースは男性よりも女性の方が多い傾向にある。

表7 性別にみた出身地

	合計		男性		女性	
	度数	%	度数	%	度数	%
ウランバートル	206	62.2%	66	70.2%	139	59.2%
地方	111	33.6%	23	24.5%	88	37.4%
無回答	14	4.2%	5	5.3%	8	3.4%
合計	331	100.0%	94	100.0%	235	100.0%

有配偶者の出身地（実家）を性別で見ると、有配偶男性で「ウランバートル」と回答した学生は83.3%（5名）、有配偶女性の「ウランバートル」の出身率は85.2%（23名）となっている（表8）。

有配偶女性の出身地（実家）が「ウランバートル」の割合は、無配偶者と比較すると26.1ポイント高くなっている。

表8 性別でみた有配偶者の出身地

	有配偶	無配偶	有配偶男性		有配偶女性	
	度数	度数	度数	%	度数	%
ウランバートル	28	178	5	83.3%	23	85.2%
地方	5	106	1	16.7%	4	14.8%
無回答	0	5	0	0.0%	0	0.0%
合計	33	289	6	100.0%	27	100.0%

3.6 家族

「一人暮らし」をしている学生は、26名で全体の7.9%である（表9）。学生の同居家族数をみると、「2人」25.2%、「3人」29.5%、「4人」21.3%、「5人」8.8%、「6人」3.4%、「7人」2.1%、「8人」1.2%、「9人」0.3%、「14人」0.3%であった。

表9 同居家族数

	度数	%
1人暮らし	26	7.9%
2人	83	25.2%
3人	97	29.5%
4人	70	21.3%
5人	29	8.8%
6人	11	3.4%
7人	7	2.1%
8人	4	1.2%
9人	1	0.3%
14人	1	0.3%
合計	329	100%

同居している兄弟姉妹の数を見ると（表10）、「1人」が78.0%、「2人」11.3%、「3人」6.0%、「4人」1.8%、「5人」1.8%、「6人」1.1%であった。

「2人暮らし」の83名のなかで、「兄弟姉妹」と同居している割合は62.7%（52名）であった。

表10 同居している兄弟姉妹数

人数	度数	%
1	131	78.0%
2	19	11.3%
3	10	6.0%
4	3	1.8%
5	3	1.8%
6	2	1.1%
合計	168	100.0%

アンケートに回答した331名のなかで、「曾祖父」と同居している者は5名で同居率は1.5%、「祖父」との同居は20名（1.5%）、「曾祖母」5名（1.5%）、「祖母」33名（10.0%）である（表11）。

表11 曾祖父・祖父・曾祖母・祖母との同居状況

	度数	%
曾祖父	5	1.5%
祖父	20	6.0%
曾祖母	5	1.5%
祖母	33	10.0%

家族の構成員が、姪や甥の場合がある。同居している姪甥が「1人」のケースは13名(72.2%),「2人」2名(11.1%),「3人」2名(11.1%)であった(表12)。

表12 同居している姪と甥の数

人数	度数	%
1	13	72.2%
2	2	11.1%
3	2	11.1%
10	1	5.6%
合計	18	100.0%

子育てをしている学生で、兄弟姉妹と同居している者は5名(16.7%),姪甥と同居している者はいなかった。

子育てをしている学生の家族数は、「3人」が11名(36.7%),「4人」10名(33.4%),「5人」7名(23.3%),「6人」1名(3.3%)であった(表13)。

表13 子どもいる学生の家族数

人数	度数	%
3	11	36.7%
4	10	33.4%
5	7	23.3%
6	1	3.3%
無回答	1	3.3%
合計	30	100.0%

育児をしている30名のうち、親と同居している者は12名、親との同居率は40.0%となっている。

4 学生の出産についての意識

表14は、学生の出産についての賛否の見解を分析したものである。

学生の出産について、「良いことだ」と考えている学生は77名で23.3%、「良いことではない」と考える学生は236名で71.3%である。学生の出産について、性別で賛否の意見をみると、「良いことだ」と肯定している男子学生は26名（27.7%）、女子学生は51名（21.7%）である。「良いことではない」と思っている学生は、男子学生が61名（64.9%）、女子学生は174名（74.0%）となっている（表14）。

有配偶男性で学生の出産について「良いことだ」と回答したのは4名で66.7%、「良いことではない」と回答した有配偶男性は2名で33.3%となった。有配偶女性で「良いことだ」と回答したのは4名で14.8%、「良いことではない」と回答したのは21名で77.8%となっている。

有配偶男性は学生の出産に肯定的である一方、有配偶女性は否定的な傾向にある。

有配偶女性が、女子学生合計の結果よりも学生の出産について「良いことではない」と3.8ポイント高く回答している。

表14 学生が出産することについての意識

	合計		男性		女性		有配偶男性		有配偶女性	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
良いことだ	77	23.3%	26	27.7%	51	21.7%	4	66.7%	4	14.8%
良いことではない	236	71.3%	61	64.9%	174	74.0%	2	33.3%	21	77.8%
無回答	18	5.4%	7	7.4%	10	4.3%	0	0.0%	2	7.4%
合計	331	100.0%	94	100.0%	235	100.0%	6	100.0%	27	100.0%

学生の出産についての意見を年齢別に分析をすると（表15）、「22歳未満」では「良いことではない」と217名（74.1%）が回答している。「23歳」以上の学生は、「良いことではない」と15名（45.5%）が回答し、「良いことだ」と回答したのは17名（51.5%）となった。

22歳未満の学生は出産には否定的であるが、23歳以上になると肯定的になる傾向がある。

学生の出産について子持ちの学生の意識をみると、「良いことだ」と回答したのは20名で66.7%と非常に高くなっている（表15）。すなわち、子育てをしている学生の約7割は学生の出産を肯定している。

表15 学生の出産について年齢別の意識

	22歳未満		23歳以上		子どもあり	
	度数	%	度数	%	度数	%
良いことだ	61	20.8%	17	51.5%	20	66.7%
良いことではない	217	74.1%	15	45.5%	9	30.0%
無回答	15	5.1%	1	3.0%	1	3.3%
合計	293	100.0%	33	100.0%	30	100.0%

5 子どもの有無について

5.1 子どもの有無

子育てをしている学生は30名で、アンケートに回答した331名の9.1%にあたる（表16）。

表16 子どもの有無

	度数	%
子どもあり	30	9.1%
子どもなし	292	88.2%
無回答	9	2.7%
合計	331	100.0%

子どものいる男子学生は3名で男子学生の3.2%（表17）、その内訳は有配偶者1名、未婚1名、無回答1名であった。アンケートに回答した女子学生235名のなかで、「子どもあり」と回答したのは27名で女子学生の11.5%を占める。

子育てをしている女子学生27名のうち、有配偶者は24名（有配偶率88.9%）、未婚者3名（未婚率11.1%）である。有配偶女性30名のうち、「子どもがいる」のは27名である。女子学生の有配偶出生率は90%である。

次に、子育てをしている学生について、性別で年齢分布をみてる（表17）。子育てをしている男子学生は3名で、年齢は「21～22歳」が2名（66.7%）、「23～24歳」1名（33.3%）となっている。

育児をしている女子学生の年齢分布（表17）は、「15～16歳」1名（3.7%）、「19～20歳」6名（22.3%）、「21～22歳」3名（11.1%）、「23～24歳」5名（18.5%）、「25～26歳」5名（18.5%）、「29～30歳」2名（7.4%）、「31～32歳」3名（11.1%）、「33～34歳」1名（3.7%）である。

表17 性別にみた子育てをしている学生の年齢分布

	合計		男性		女性	
	度数	%	度数	%	度数	%
15～16歳	1	3.3%	0	0.0%	1	3.7%
17～18歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
19～20歳	6	20.0%	0	0.0%	6	22.2%
21～22歳	5	16.7%	2	66.7%	3	11.1%
23～24歳	6	20.0%	1	33.3%	5	18.5%
25～26歳	5	16.7%	0	0.0%	5	18.5%
27～28歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
29～30歳	2	6.7%	0	0.0%	2	7.4%
31～32歳	3	10.0%	0	0.0%	3	11.1%
33～34歳	1	3.3%	0	0.0%	1	3.7%
無回答	1	3.3%	0	0.0%	1	3.7%
合計	30	100%	3	100.0%	27	100.0%

子育てをしている女子学生の割合を年齢別にみると（表18）、「15～16歳」の女子学生の9.1%、「19～20歳」の8.3%、「21～22歳」10.7%、「23～24歳」41.7%、「25～26歳」62.5%、「29～30歳」66.7%、「31～32歳」100%、「33～34歳」100%が子育てをしている。23歳以上から子育てをしている女子学生の割合が高くなる。30歳前後の女子学生の育児をする割合は非常に高い。

子どものいる女性（27名）の未婚率は、11.1%（3名）である。なおモンゴルでは、出産後に結婚式を行い、入籍するパターンが珍しくない。

表18 年齢別にみた女子学生の子供のいる割合

年齢	女性		子どもあり		年齢別子育てをしている学生の割合
	度数	%	度数	%	
15～16歳	11	4.7%	1	3.7%	9.1%
17～18歳	91	38.7%	0	0.0%	0.0%
19～20歳	72	30.6%	6	22.3%	8.3%
21～22歳	28	11.9%	3	11.1%	10.7%
23～24歳	12	5.1%	5	18.5%	41.7%
25～26歳	8	3.4%	5	18.5%	62.5%
27～28歳	3	1.3%	0	0.0%	0.0%
29～30歳	3	1.3%	2	7.4%	66.7%
31～32歳	3	1.3%	3	11.1%	100.0%
33～34歳	1	0.4%	1	3.7%	100.0%
無回答	3	1.3%	1	3.7%	0.0%
合計	235	100.0%	27	100.0%	

5.2 子どもの数

子どもの数についての質問には、「1人」が22名（73.3%）、「2人」は5名（16.7%）、「3人」3（10%）名であった。子どもが2人いる女子学生の年齢の内訳は、「19歳」1名、「29歳」2名、「31歳」1名、「32歳」1名であった。30歳前後の学生は、子どもの数が複数になる傾向にある。

6 出産について

6.1 出産した時期

学生が出産した時期は、「大学入学前」8名（29.6%）、「在学中」16名（59.3%）となっている（表19）。

大学入学前に出産したと回答した8名の学生の年齢をみると、19歳が1名いるが、それ以外の7名は23歳以上である。

表19 出産した時期

	度数	%
大学入学前	8	29.6%
大学在学中	16	59.3%
無回答	3	11.1%
合計	27	100.0%

6.2 育児休暇期間

育児休暇期間（表20）は、「1～2ヶ月」が6名で全体の26.1%、「3～4ヶ月」3名（13.1%）、「5～6ヶ月」3名（13.1%）、「7～8ヶ月」1名（4.3%）、「9～10ヶ月」2名（8.7%）、「11～12ヶ月」2名（8.7%）、「24ヶ月」2名（8.7%）、「36ヶ月」2名（8.7%）となっている。

大学在学中に出産した女子学生（16名）の育児休暇期間（表20）をみると、「1～2ヶ月」は4名で25.0%、「3～4ヶ月」2名（12.5%）、「5～6ヶ月」2名（12.5%）となっている。出産後半年で大学に復学する割合は、50%である。育児休暇を1年とする学生は2名で全体の12.5%、育児休暇が2年は2名（12.5%）であった。

大学在学中に出産した学生（16名）のうち、出産後、次学期から復学したのは、9名で56.3%である。すなわち、出産後、次学期から約半数以上の学生が復学する。

表20 育児休暇期間

(ヶ月)	合計		大学在学中に出産した女性	
	度数	%	度数	%
1～2	6	26.1%	4	25.0%
3～4	3	13.1%	2	12.5%
5～6	3	13.1%	2	12.5%
7～8	1	4.3%	1	6.3%
9～10	2	8.7%	1	6.3%
11～12	2	8.7%	2	12.5%
13～14	1	4.3%	0	0.0%
15～16	1	4.3%	0	0.0%
24	2	8.7%	2	12.5%
36	2	8.7%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	12.5%
合計	23	100.0%	16	100.0%

7 子育てについて

7.1 養育費の負担者

子どものいる女性に子どもの養育費を誰が負担しているのかについて質問したところ（複数回答あり）（表21）、「父」6名（20%）、「母」5名（16.7%）、「夫」18名（60%）、「妻」1名（3.3%）であった。なお、同質問への子持ちの男性の回答は、「妻」の1名だけであった。両親から子どもの養育費を負担してもらっている割合は36.7%である。

両親に養育費を負担してもらっている学生（11名）の年齢の内訳は、「20歳」1名（9%）、「21歳」4名（36.5%）、「23歳」4名（36.5%）、「26歳」1名（9%）、「32歳」1名（9%）である。

表21 養育費の負担者

	度数	%
父	6	20.0%
母	5	16.7%
夫	18	60.0%
妻	1	3.3%
合計	30	100.0%

7.2 育児への支援状況

子どもの面倒を主にみている人は誰かと質問したところ、有効回答数20のうち、「母」と回答したのは13名（65.0%）、「父」4名（20.0%）であった。

子どものいる女子学生に子どもの面倒を手伝ってくれる人を尋ねたところ（複数回答あり）（表22）、「父」と回答したのは14名で子育てをしている女子学生に占める回答率は51.9%、「夫」6名（22.2%）、「母」と回答したのは24名で85.2%にもものぼる。その他「兄弟姉妹」が3名（11.1%）であった。

子どもがいると回答した30名のうち、子どもを幼稚園に通園させているのは12名（40%）、子どもがいる女子学生の場合は11名（40.7%）である。

表22 子どもの面倒を手伝ってくれる人

	合計		女性	
	度数	%	度数	%
父	15	50.0%	14	51.9%
夫	6	20.0%	6	22.2%
母	24	80.0%	23	85.2%
自分の子供	1	3.3%	1	3.7%
兄弟姉妹	3	10.0%	3	11.1%
姪甥	1	3.3%	1	3.7%

8 女子学生の勤労意欲について

女子学生235名のうち、「生涯を通じて社会で働きたいですか」との質問に「はい」と回答したのは222名で、これは女子学生の94.5%を占めている。

子育てをしながら学んでいる女子学生の「生涯を通じて社会で働きたい」と答えた回答率は、100%であった。

9 結語

モンゴルは、1980年代末の旧ソ連の崩壊と社会主義国家の変革という激動の波を受け、1990年に民主主義国家として新たに歩みはじめた。計画経済から市場主義経済への移行は、貧富の差を拡大させるなど社会そして人々の暮らしに大きな影響を及ぼしている。

モンゴルの総人口は、2010年現在275.6万人（モンゴル国家統計委員会によれば、2012年現在286.8万人）である。そのうち68.5%が都市で生活をしている。平均寿命は男性が65.0歳、女性は72.8歳である。男女別にみた総人口に占める60歳以上の割合（高齢化率）は、男性が5.2%、女性6.7%である（United Nations [2012] “*World Statistics Pocketbook 2011*”）。なお、日本における同年の同データは、総人口1億2653.6万人、都市で生活している人の割合は91.3%であり、平均寿命は男性80.1歳、女性87.1歳、男女別にみた総人口に占める60歳以上の割合は、男性28.2%、女性33.8%である。すなわち、モンゴルは日本と比較すると、総人口は日本の約21.8%、平均寿命は日本より男性が16.8歳、女性が14.3歳も短い。

モンゴルは、女性の労働力率が53.9%（日本は49.5%）、2005年から2011年における大学生などの学生に占める女性の割合は60.3%（日本は45.8%）である（United Nations [2012]）。モンゴルでは、日本より女性が社会で活躍している。

モンゴルの大学生が大学在学中に結婚や出産し、学業と子育てを両立させているという現状は、上記の諸要因と結婚や出産ならびに家族のあり方についての文化および民族性に適応するかたちで現れてきたものであるのかといった、社会学的な要因分析はここでは行

わなかった。

本稿では、モンゴルでは女性の大学進学率が高いということに着目し、また女子学生の回答数も多かったことから、女子学生の状況をより浮き彫りにするように努めた。

今回の調査により明らかにすることができたモンゴルの大学生の学生結婚と出産についての意識と、学生結婚および出産し育児をしている学生の生活の現状は、以下のとおりである。

- 1) 男子学生は20代前半で学業を終える傾向にある。20代半ばから大学で学ぶ学生は、ほとんどが女性である。女子学生に占める子育てをしながら学ぶ25歳以上の学生の割合は4.7%である。
- 2) 大学生の有配偶率は10%、男子学生は6.4%、女子学生は11.5%である。23歳以上から女子学生の有配偶率が非常に高くなる。
- 3) 出身地（実家）が「ウランバートル」の割合は、男子学生70%、女子学生59%である。大学進学のために上京する割合は、男性よりも女性が高い傾向にある。
- 4) 女性で出身地（実家）がウランバートルにある割合は、無配偶者よりも有配偶者の方が高い。
- 5) 学生の出産については23%が肯定している。学生の出産に賛成の割合は、女性より男性の方が高い。学生の年齢が22歳未満では否定的、23歳以上になると肯定的になる傾向がみられる。有配偶男性は学生の出産に肯定的である一方、有配偶女性は否定的な傾向にある。有配偶女性が、無配偶女性よりも学生の出産について否定的になる。子どものいる学生の67%が学生の出産を肯定する。
- 6) 大学生の9.1%に子どもがいる。子育てをしている学生の割合は男性の3.2%、女性は11.5%、有配偶女性では90%である。25歳以上で子育てをしている女子学生の割合は非常に高い。30歳前後の子持ちの有配偶女性は、子どもの数が複数になる傾向にある。
- 7) 子どものいる女子学生の未婚率は、11.1%である。
- 8) 育児をしている学生の59.3%が、大学在学中に出産している。
- 9) 大学在学中に出産した女子学生は出産後1～2ヶ月で26.1%が、次学期から56.3%が復学する。
- 10) 学生の両親が孫の養育費を負担する割合は、37%である。
- 11) 子どものいる女子学生の85.2%が母親に子育てを手伝ってもらっている。
- 12) 子どもを幼稚園に通園させている学生は育児中の学生の40%、子どものいる女子学生の場合は40.7%である。
- 13) モンゴルの女子学生の生涯を通じて社会の中で働きたいという意識は、非常に高い。
- 14) 子どもを育てながら学ぶ女子学生は、「生涯を通じて社会で働きたい」と考えている。

謝辞

モンゴルにおける本アンケート調査には、モンゴル文化教育大学ブレンチメグ先生に大変ご尽力いただきました。甕暁子先生、青木良平先生、アリウントヤ先生、ハリヨン先生、アリマー先生、ムンフトール先生、アシガイ先生にもご協力いただきました。メグさんにはアンケートの翻訳とご助言をいただきました。モンゴル文化教育大学学長牧原創一先生

をはじめ、先生方のご協力がなければ、本調査を実施することはできませんでした。ここに記して、心より感謝申し上げます。

[抄 録]

モンゴルの大学生の学生結婚と出産についての意識および 子育てをしている大学生の生活実態

齋 藤 香 里

本研究では、アンケート調査を実施し、モンゴルの大学生の学生結婚と出産についての意識と育児をしている大学生の生活状況について以下のことを明らかにした。

- 1) 大学生の有配偶率は10%、男子学生の有配偶率は6.4%、女子学生の有配偶率は11.5%である。
- 2) 学生の出産については23%が肯定しており、22歳未満では否定的で、23歳以上になると肯定的になる。子どものいる学生は67%が学生の出産を肯定する。
- 3) 大学生の9.1%に子どもがいる。学生で子育てをしている割合は男性の3.2%、女性の11.5%、有配偶女性の90%である。
- 4) 女子学生で25歳以上になると、育児をしている割合が非常に高くなる。
- 5) 子育てをしている女子学生の59.3%が、大学の在学中に出産している。
- 6) 大学在学中に出産した女子学生は、出産後1～2ヶ月で26.1%が、次学期から56.3%が復学する。
- 7) 子どものいる女子学生の85.1%が母親に子育てを手伝ってもらっている。
- 8) 子どもを幼稚園に通園させている学生は育児中の学生の40%、子どものいる女子学生の場合は40.7%である。
- 9) モンゴルの女子学生は、生涯を通じて社会の中で働きたいという意識が非常に高い。